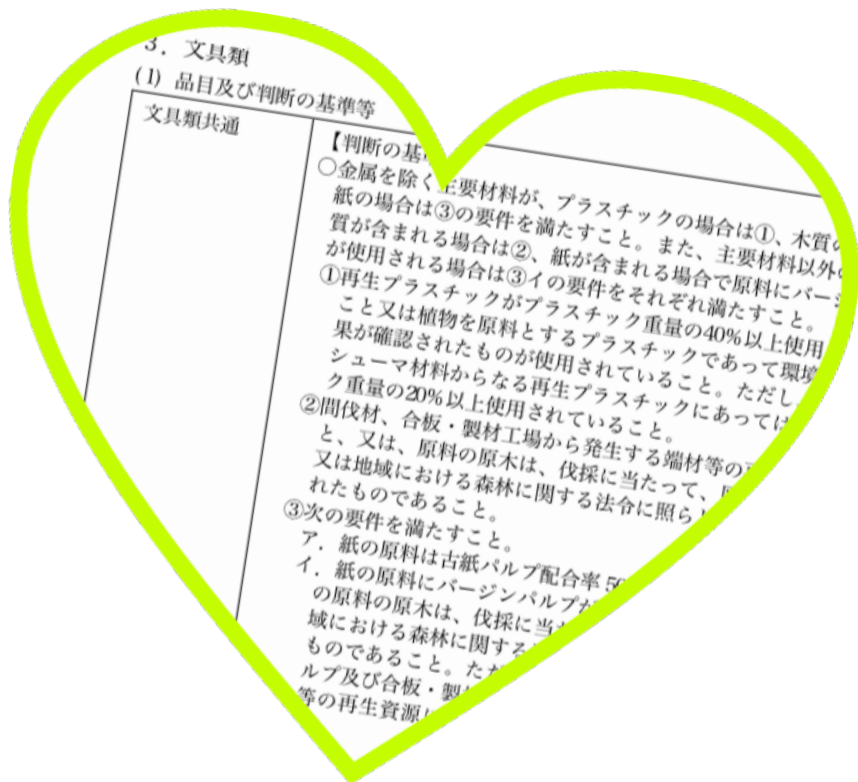


【論考】

環境に優しい文具論

～3つの類型と文具の可能性～



環境に優しい文具論

～3つの類型と文具の可能性～

奈良女子大学文学部

山田有倭

目次

1. はじめに
2. 環境に優しい文具とはー各メーカーの取り組みからー
 - 2-1 環境に配慮した製品の基準
 - 2-2 環境に優しい文具の3つの類型
3. 環境に優しい文具と消費者
 - 3-1 気ままな消費者たち
 - 3-2 可能な工夫と3つの類型
 - 3-3 文具がスイッチを入れる環境意識
4. おわりに

1. はじめに

エコ、環境保全、森林保護、持続可能な開発などなど……、環境問題への対策が様々な人たち、場所で行われている。ちょうど2020年7月からプラスチック製のレジ袋の有料化が全国でスタートするなど、環境問題とその対策は今後の私達の生活に大きく関わりづけるだろう。私達が家や学校、職場などで日常的に接し、使用している文具にも環境問題に対する様々な取り組み、工夫がなされている。本稿では、そんな「環境に優しい文具」にはどんなものがあるか、文具にできる環境保全とはどんなことか、何がどこまでできそうなのかについて考察していく。

なお、このテーマに関しては、法律・諸規定や各メーカーの取り組みなどに関し、有用なウェブサイトが多く存在する。そこで本稿では、通常の論文とはことなる書式を採用し、やや煩瑣となるが各リンクを本文中に載せ、さらに同じものを末尾にまとめて再掲する。読んでいただきながらサイト情報を確認する場合は前者を、リンク集として使って頂く場合は後者をご活用いただきたい。

2. 環境に優しい文具とは ー各メーカーの製品からー

コクヨ、トンボ鉛筆、PILOT、三菱鉛筆、サクラクレパス、サンスター文具、ゼブラの文具メーカーのホームページを見ると、どの企業も環境に対する取り組みや環境に配慮した製品を公開、紹介するページがあり、文具においても環境問題が意識されていることが分かる。

2-1 環境に配慮した製品の基準

環境に配慮した製品であることを示す客観的な基準として、「エコマーク認定商品」、「グリーン購入法適合商品」、「エコ商品ねっと（GPN データベース）掲載商品」の3つの表記が各メーカーサイトで使用されている。

エコマークとは、様々な商品（製品およびサービス）の中で、「生産」から「廃棄」にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品につけられる環境ラベルのことで、1989年から制度が開始され、公益財団法人日本環境協会が実施している（エコマークについて <https://www.ecomark.jp/about/> エコマーク事業実施要領 <https://www.ecomark.jp/office/guideline/yoko/>）。

文具に関するエコマークの認定基準は「文具・事務用品」の商品類型で認定基準が制定され、製品全体の要件、特定の製品に限った要件など細かく定められている。その中でも、①シャープペンシル、ボールペン、消しゴムなど品目ごとに定められた再生材料（古紙パルプや再・未使用木材、再生プラスチックおよびその他再生材料）の基準配合率を満たしていること、②使用後に異種材料間（木、紙、プラスチック、金属など）の分別が可能であること、③最終製造工程を行う工場が立地している地域の大气汚染、水質汚濁、騒音、悪臭、有害物質の排出などについて、関連する環境法規および公害防止協定などを順守していること、④製品の包装は、省資源化、リサイクルの容易さに配慮されていること、⑤製品に抗菌剤を可能な限り使用しないこと、⑥品質および安全性について、該当する日本工業規格などの品質基準に適合していることが主に製品全体で共通して定められているため、文具の環境配慮では重視すべき点だと考えられる（「文具・事務用品 Ver2.4」認定基準書 https://www.ecomark.jp/nintei/112/112V2_a.pdf）。

グリーン購入法とは、国等の公的機関が率先して環境物品等（環境負荷低減に資する製品・サービス）の調達を推進するとともに、環境物品等に関する適切な情報提供を促進することにより、需要の転換を図り、持続的発展が可能な社会の構築を推進することを目指す法だ。正式名称は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」であり、今から約20年前の2001年4月から全面施行された（グリーン購入法に関する政府サイト：<https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-law/houritu.html> 条文：https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=412AC1000000100）。

その中の、環境物品等の調達の推進に関する基本方針では「文具類」として特定調達品目に定められ、材料がプラスチックの場合と木質の場合と紙の場合とで要件が定められてお

り、それを満たすこととが文具共通の判断基準となっている（グリーン購入法<文具類>の手引＝「環境物品等の調達に関する基本方針」より引用して一般社団法人 全日本文具協会が作成した文書：http://www.zenbunkyo.jp/green/pdf/green_2020.pdf）。

エコ商品ねっととは、GPN（グリーン購入ネットワーク）が運営するデータベースで、GPN グリーン購入ガイドラインに基づく環境配慮型製品・サービスの環境情報を掲載し、エコマーク取得商品やグリーン購入法に適合した製品・サービス等も簡単に検索・比較することができる（グリーン購入ネットワーク 活動内容 <https://www.gpn.jp/about/activity/>）。

GPN グリーン購入ガイドラインの文具・事務用品購入ガイドラインでは、①再生材を多く使用していること、②主要な材料が木質または紙の場合、再生材以外の原料は原料産出地（木材等伐採地）の法律・規則を守って生産されたものであり、かつ、再・未利用材または持続可能な森林等の管理に配慮して産出地の状況を確認の上、調達されたものを多く使用していることが共通項目として定められ、品目別に個別項目が設定されている。他の二つとは、再生材の使用率が明確に決められていない点で異なっている（グリーン購入ネットワーク 「文具・事務用品」購入ガイドライン https://www.gpn.jp/assets/pdf/gpn_gl6.pdf）。

プラスチック製のシャープペンシルで比較すると、エコマーク認定を受けるには主要材料中の再生材料の基準配合率が 70%である必要がある一方で、グリーン購入法適合商品であるには再生プラスチックがプラスチック重量の 40%以上使用されていること又は植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたものが使用されていることが基準となる。つまり環境に配慮している文具を示す表記の中ではエコマークが最も厳しい基準が設定されている。

2-2 環境に優しい文具の3つの類型

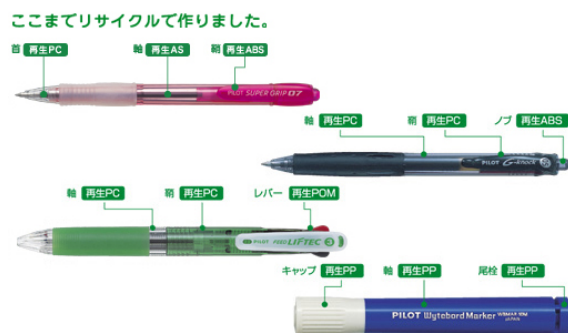
紹介したのは全般的な諸規定や取り組みの概要であるが、ここから文具と環境保全の関係をどのようにとらえていけばよいだろうか。ひとつの有効な手段は、類型化して把握することであろう。そこで、上記の環境に配慮した製品の基準と、各メーカーの環境に配慮した文具の情報をもとに、環境に優しい文具を、筆者なりに3つに分類した。

- ①再生材を使用したもの
- ②使い捨てでなく替え芯やインクの補充ができ、繰り返し使えるもの
- ③捨てる際の分別が容易にできるもの

① 再生材を使用したもの

各メーカーの環境に配慮した製品一覧やカタログなどを見ると、ボールペンのようなプラスチック製の文具や消しゴムのスリーブの多くは再生プラスチックや再生紙、古紙のような再生材が使用によって環境配慮をしているパターンが多い。再生材の使用だけでなく再生材の使用比率やどのような再生材を使用しているかを明記しているところもある。

PILOT のホームページでは再生材の使用について特に詳しく記載されており (<https://www.pilot.co.jp/products/pen/others/saisei/index.html>)、文具のどの部品にどんな種類で、なにかからリサイクルした再生材が使用されているか、再生材はどんな過程で回収してリサイクルしているかまで説明している。このページを見ると、工場内で出たスクラップやコンパクトディスク、携帯電話用ボタンまでもがリサイクルしてペンなどの文具の一部に生まれ変わっていることがわかる。



② 使い捨てでなく替え芯やインクの補充ができ、繰り返し使えるもの

シャーペンを芯の補充をせず使い捨てにする人はまさかいないだろうが、ペンや蛍光マーカー、ホワイトボードマーカーなども替え芯やインクカードリッジなどで繰り返し使用できるものも各メーカーで複数見られる。また、芯を補充して繰り返し使うことがシャーペンだが、その替え芯のプラスチックケースに再生プラスチックが使用されていて、替え芯自体も環境に優しい文具だということもある。

ゼブラのマッキーにはインクカードリッジで詰め替えができるタイプのものもあり、インクカードリッジのケース自体も再生樹脂を 7 割以上使用していてエコマーク認定されている (<https://www.zebra.co.jp/eco/products/mackee-care/index.html>)。私は中高生までは掲示物の清書をする際などなにかと油性ペンを使う機会が多く、インクがかすれて頻繁に買い替えるという経験があったので、この詰め替えできるマッキーをもっと早く知っていたら環境に優しい、かつ経済的だったのかもしれないと感じた。

③ 捨てる際の分別が容易にできるもの

捨てる際の分別が容易な文具には、分解が容易なものと分別の必要がないものがある。

分解が容易なものの例としてはサンスター文具の「LaCut」というテープカッターがあり、これは一種類のねじで部品が組み立てられているため分解する際にひとつの工具だけで完結するという捨てる際の工夫がなされている。また、パッケージに使い方などを記すことで取り扱い説明書に使う紙資源を削減するという環境への配慮もなされている (<http://www.sun-star-st.jp/company/eco.html>)。

分別の必要がないのは、コクヨの<オール紙>シリーズだ。製品のすべてが紙でつくられたファイリング用品のシリーズで、ファイル本体やつづりこみ表紙だけでなく、従来はプラ

スティックや金属性が多いファイルのとじ具やつづりひもも紙でできているため、捨てる際に丸ごと紙ごみとして捨てられる (<https://www.kokuyo-st.co.jp/stationery/allkami/>)。



以上、素材や構造など文具の"モノ"としての側面に注目して3つに分類し、その内容を紹介してきた。それぞれに名をつけるなら、「①再生材を使用したもの」は<原材料改善型>、「②使い捨てでなく替え芯やインクの補充ができ、繰り返し使えるもの」は<長持ち型>、「③捨てる際の分別が容易にできるもの」は<再資源化型>となるだろうか。インドネシアの森を現地の人々とともに見守りながら紙の材料調達をするといった例も、<原材料改善型>のひとつであろう (ex. 製紙メーカーAPP のサイト：http://www.app-j.com/product/new_item.php)。

このように整理して見えてくるのは、この3つが択一的なものではないということである。つまり、①まずメーカーはより環境に配慮した原材料を使用し、②消費者はそれを長く大事に使い、③そして最後はリサイクルを意識した捨て方をする、という一連の流れが、この3つの類型にはあらわれている。

ではその消費者は、実際にはどのような存在なのだろうか。さらに、消費者と文具の関係は、環境保全という観点から見た場合、どのようにとらえるのだろうか。節を改めてみていきたい。

3. 環境に優しい文具と消費者

3-1 気ままな消費者たち

だが、企業がどれだけ素材や構造を工夫して環境に優しい文具を開発・販売しても、環境に優しい文具を選択することや、インクなどを詰め替えして繰り返し使用されたり、捨てる際にちゃんと分別されたりなど正しく環境に優しい使われ方をされるかどうかは、結局消費者に委ねられているのではないだろうか。マイボイスコム株式会社が2019年に行った「文房具に関するアンケート調査」(https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=25008)では、購入時の重視点(複数選択可)は「価格」が7割弱、「サイズ」5割弱、「デザイン」「機能性に優れている、実用的」が各4割弱、「材質」「色」などが各3割弱で、文房具を新しく購入したり買い替えたりするのは「使い終わった・使いきった」「使えなくなった」が購入者の各7割、「用途にあわせて必要」「気に入った商品を見つけた」「使いに

くい」「古くなった」などが各2割という結果であった。また、同調査で女性は文具に対してこだわりが強い傾向にあったが、2017年にキングジムが日頃から文房具を購入する20～49歳の女性400名を対象に行った「プライベートで購入する文房具に関する意識調査」(<https://www.kingjim.co.jp/news/detail/23.html>)においては、文房具を購入する際、価格以外で重視するポイント(複数回答)については、「使いやすさ」が77.8%、「デザイン」が52%という結果となっていた。消費者というのは基本的に気ままな存在であり、たまたま使い心地やデザインに惹かれて手に取ったものが環境に優しい文具であることはあっても、環境に優しいからという理由で個人が文具を選ぶことは、まだ筆者自身を含めスタンダードな考え方ではないように感じる。

3-2 可能な工夫と3つの類型

いくら環境によいからといっても、気ままな消費者に、その商品が無理やり買ってもらうことはできない。なにか環境に優しい文具を積極的に手に取ってもらう工夫が必要なわけだが、そのためには、環境に優しい以外の使用時やデザイン面での強みが必要なのではないだろうか。

例えば、デザイン文具メーカーMIDORIの商品「P-51クリップス」は材料に紙パウダーが51%使用されているため、廃棄時は紙ごみとして処分できる環境に優しい文具でありながら、カラフルで動物や花の形など種類豊富、金属のクリップとは違うマットで優しい質感とかわいらしいお菓子のようデザインも売りにしている(<https://www.midori-store.net/SHOP/5355/103914/list.html>)。



また、コクヨの針なしステープラー「ハリナックス」はグリーン購入法適合商品、エコ商品ネット掲載商品で環境に優しい文具である。商品ページでは「オススメ活用例」(<https://www.kokuyo-st.co.jp/stationery/sl-stapler/case.html>)として、針がないので、飲食店や食品メーカーなどで異物混入の危険を回避できたり、小さい子供がいる場や介護施設などで針による手先の怪我や針の誤飲をしたりしないという、従来の針で綴じるホッチキスにはできない使用法をアピールしている。

このように、環境に優しい以外の強みのある文具を開発する、あるいは機能的、デザイン的に強みのある文具を環境に配慮したものにすることがせつかくの環境に優しい文具を消費者により手に取ってもらうために重要だと一消費者の視点で考えた。

ここでふたたび、前節の3つの類型を思い出していただきたい。①<原材料改善型>、②<長持ち型>、③<再資源化型>の3つだ。これにあてはめると、消費者に手に取ってもらいたいのは、①②③いずれか、もしくはすべてに対応した商品であるが、類型ごとに工夫をすることもできるだろう。

環境に優しい文具を"手に取る"ことだけでは環境保全のためには不十分だ。機能的、デザイン的に気に入った文具を使い捨てるような雑な使い方をする人はあまりいないと思うが、文具を環境に優しく"使用"することを消費者が意識する必要があるだろう。そのためにはどんな工夫がありえるだろうか。替芯を売り場の目立つところにズラッとならべておく、といった小さなことでも、ボールペンの使い捨て対策にはかなり効果があるかもしれない。使い捨てるものをその都度購入するのと、詰め替えして使い続けるのとでは、明らかに詰め替えのほうが経済的であるというデータを示せるなら、それを前面に押し出した広告をするのも効果があるのではないだろうか。

さらに同様に、③<再資源化型>を促す工夫もいろいろありうるだろう。プリンターのインクカートリッジの回収箱の設置などはすでに実行されている一例である。豆乳などの飲料の紙パックをたたむと「たたんでくれてありがとう」などのメッセージが印刷されているものがある。このメッセージの効果は、カゴメの環境配慮型商品とシステムの研究・開発 (<https://www.kagome.co.jp/company/csr/environment/randd/>) の「飲用後の紙容器の分別と減容化の促進支援」、「『たたんでくれてありがとう』に寄せられた声」の欄をご覧ください。文具でも再資源化に協力した消費者がちょっと嬉しくなるような商品を開発することはできないだろうか。

いずれの工夫の場合も、消費者の背中をいかに押すか、がポイントだといえるだろう。

3-3 文具がスイッチを入れる環境意識

文具は家や学校、職場など様々な場所、場面で使用する機会があり、文房具店だけでなく書店や百円ショップや雑貨店、コンビニやスーパー、ドラッグストアなどでも販売されており、子どもから大人まで幅広い、ほぼすべての年代の人の生活に関わりのある、私達にとって非常に身近な存在だ。そんな多くの人に必要とされる文具は、工夫することで、モノをいかに買うか・いかに使うか・いかに捨てるかを学ぶ、いわば環境意識と行動の学校のよう働きをするのではないだろうか。もしこんなに身近な文具という存在が消費者の環境への意識を変えるきっかけとなったら、大きな影響を与えられるだろう。エコマークの文具の認定基準にも次のような文言がある：「文具・事務用品は、オフィスだけでなく子供たちが学校でも使用するものであり、環境に配慮された文具・事務用品が広く普及することは、環境保全に役立つだけでなく、身近な環境教材としての役割も担っています」 (<https://www.ec>

omark.jp/nintei/112.html)。

整理するなら文具というものは、それ自体がいわゆる3R（リデュース・リユース・リサイクル）の対象であるだけでなく（3R推進協議会 <https://www.3r-suishinkyogikai.jp/intro/3rs/>）、そのような意識や行動へのスイッチをいれる役割を担う可能性のある存在でもあるといえるだろう。

最後に、その可能性の具体例を示しておきたい。

今回環境に優しい文具をテーマに様々な製品を調べてみて、私が最も可能性を感じたのは、トンボ鉛筆の「木物語」「Hello Nature.」というシリーズの鉛筆だ（木物語 リサイクル鉛筆 https://www.tombow.com/products/kimonogatari_recycled/ 木物語 森林認証鉛筆 https://www.tombow.com/products/kimonogatari_eco/ 木物語 かきかたえんぴつ https://www.tombow.com/products/kimonogatari_kakikata/ Hello Nature. https://www.tombow.com/products/hello_nature/）。



「木物語 リサイクル鉛筆」（上図）は今まで廃材となっていた木材の端材と端材をつなぎあわせ、芯には工場の製造プロセスで副生成物として生まれる黒鉛を分別して、更に精製したリサイクル黒鉛を使用し、鉛筆ではじめてエコマーク認定をされた製品である。「木物語 森林認証鉛筆」「木物語 かきかたえんぴつ」「Hello Nature.」は適切な森林管理がされていると認証された森林から産出された木材を使用しており、いずれもグリーン購入法適合商品、GPN エコ商品ねっと掲載商品であり、「かきかたえんぴつ」以外はエコマーク認定をされている。「木物語」は木のあたたかみを活かしたデザイン、「Hello Nature.」はパッ

ケースに美しい動物の写真を使用し鉛筆本体にも動物のイラストをデザインしているなど、環境に優しいことを強調したデザインとなっている。鉛筆は子ども、特に小学生にとって重要なアイテムのひとつである。「木物語」「Hello Nature.」のような環境に優しい文具を子どもに与えることは今後環境への配慮を意識するきっかけになるのではないだろうか。

*

そして文具がスイッチを入れるのは子どもたちだけではない。

ITメディアエンタープライズが2007年に公開した「文具の購入、エコマークって気にしてる？」という記事の中では (<https://www.itmedia.co.jp/bizid/articles/0709/28/news105.html>)、コクヨの広報部がグリーン購入法やエコマークは企業では購買における大きな要素になってきていると話す場面がある。企業が環境に優しい文具を選べば、その企業で働く多くの社員や顧客もまた環境に優しい文具を使用することになる。子どもだけでなく、社会を動かすオフィスでも環境に優しい文具を意識することは社会を大きく変える要因となる。このように、幅広く使われる文具には幅広く人々の環境への意識を変える大きな可能性を持っているといえる。

4. おわりに

各文具メーカーでは環境への配慮が努めてなされており、環境に優しい文具は主に再生材を使用している、詰め替えして繰り返し使用することができる、容易に分別して捨てることができることが特徴として挙げられることが分かった。また、文具には消費者の環境への意識を変えることが期待できる。

しかしその一方で、分別して捨てたものが実際本当に有効にリサイクルされているのかといったことはもちろん、環境に優しい商品は相対的に高価になりがちで売れにくいのではないのか、消しゴムやのりのような製品はスリーブやケースなどはともかく本体の消耗部分も本当に環境に配慮されているのかなど気になることも少なくない。(上のITメディアエンタープライズの記事では消しゴムは主成分が塩ビのためエコマーク認定は非常に厳しいとある。) そのあたりは今後の課題としたい。

筆者としても、この研究をしたからといってすぐに、常にデザインや機能、値段よりも環境に優しい文具を選択できる自信はまだないが、前よりもエコマークやグリーン購入法を意識して商品を選ぶという気持ちにはなった。本稿を読んだことで、少しでも環境に優しい文具への関心を持っていただけたなら幸いだ。

参考ウェブサイト (いずれも最終閲覧7月8日)

【官公庁・諸団体・メディアほか】

エコマーク事務局：エコマークについて <https://www.ecomark.jp/about/>

エコマーク事務局：エコマーク事業実施要領 <https://www.ecomark.jp/office/guideline/yo>

[ko/](#)

エコマーク事務局：「文具・事務用品 Ver2.4」認定基準書 https://www.ecomark.jp/nintei/112/112V2_a.pdf

グリーン購入ネットワーク：活動内容 <https://www.gpn.jp/about/activity/>

グリーン購入ネットワーク：「文具・事務用品」購入ガイドライン https://www.gpn.jp/assets/pdf/gpn_gl6.pdf

環境省：グリーン購入法.net グリーン購入法について <https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-law/>

環境省：大臣官房環境経済課【統合】グリーン購入法基本方針（令和2年2月） <https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-law/archive/bp/r1bp.pdf>

MyEL（マイボイスコム アンケートデータベース）：文房具に関するアンケート調査（第4回） https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=25008

ITmedia エンタープライズ：文具の購入、エコマークって気にしてる？ 2007年09月28日 19時41分 公開 <https://www.itmedia.co.jp/bizid/articles/0709/28/news105.html>

【文具メーカー／オンラインストア】

キングジム：「プライベートで購入する文房具に関する意識調査」2017年08月08日

<https://www.kingjim.co.jp/news/detail/23.html>

コクヨ：環境に配慮した製品・サービスの開発

https://www.kokuyo.co.jp/csr/report/ecology/eco_commodity.html

コクヨ：総合カタログ <https://kokuyo.jp/pr/stcata/>

コクヨ：ハリナックス <https://www.kokuyo-st.co.jp/stationery/sl-stapler/index.html>

<https://www.kokuyo-st.co.jp/stationery/sl-stapler/case.html>

コクヨ オール紙シリーズ <https://www.kokuyo-st.co.jp/stationery/allkami/>

ミドリオンラインストア：

P-51 クリップス <https://www.midori-store.net/SHOP/5355/103914/list.html>

同上 クローバー柄 <https://www.midori-store.net/SHOP/43319006.html>

三菱鉛筆：エコ商品 <https://www.mpuni.co.jp/products/ecology/>

ぺんてる ペんてるの環境対応商品

<https://www.pentel.co.jp/products/ecoproducts/ecoproducts/>

PILOT 環境配慮商品ビグリーン

<https://www.pilot.co.jp/products/pen/others/begreen/index.html>

PILOT 環境配慮商品一覧 <https://www.pilot.co.jp/products/pen/eco/>

PILOT 再生材の使用 <https://www.pilot.co.jp/products/pen/others/saisei/index.html>

サクラクレパス 環境への取り組み <https://www.craypas.co.jp/company/eco/index.html>

サンスター文具 環境への取り組み <http://www.sun-star-st.jp/company/eco.html>

トンボ鉛筆 環境情報 <https://www.tombow.com/corporate/csr/>

トンボ鉛筆 木物語 https://www.tombow.com/products/kimonogatari_recycled/

https://www.tombow.com/products/kimonogatari_eco/

https://www.tombow.com/products/kimonogatari_kakikata/

トンボ鉛筆 Hello Nature. https://www.tombow.com/products/hello_nature/

ゼブラ 環境への取り組み <https://www.zebra.co.jp/eco/index.html>

『文具に関する論考と企画：奈良女子大学文具ゼミ 2020』

〔2020 年度「文化社会学演習」WEB 版報告書〕 <https://bungu-narajo.org/>

2020 年 8 月 1 日

編集・発行 国立大学法人奈良女子大学文学部

人文社会学科文化メディア学コース 小川伸彦研究室編

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 E-mail ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp
